

## 1 はじめに

土木学会鋼構造委員会「鋼構造に関する国際規格調査小委員会」では、欧州および北米の国内標準の改訂および技術標準の国際化に関する動向などについて関係機関やコードライターなどに直接インタビューを行い、より最新の情報を得ることも活動の一環として位置付けてきた。そのような折、土木学会の「ISO 対応特別委員会」において欧州における土木に関連した技術標準の国際化の状況について調査が実施されることになり、その調査団（団長 長瀧重義新潟大学教授）に鋼構造の分野として本小委員会からも参加した。この調査は、平成 12 年 10 月 31 日から 11 月 9 日の 10 日間の日程でイギリスおよびフランスを訪問し、特に、設計に関する規格の策定体制、および国家規格と欧州規格（EN）および ISO 規格の整合化に関する情報収集を中心に調査活動を行った<sup>1</sup>。

また、（財）高速道路調査会では、同時期の平成 12 年 10 月 29 日から 11 月 10 日の 13 日間の日程でイギリス、フランス、ドイツおよびスウェーデンの橋梁調査（団長 依田照彦早稲田大学教授）が実施され<sup>2</sup>、欧州の橋梁事情、設計、施工、維持管理などに関する広範囲の調査が行われた。さらに、本小委員会が中心となり、アメリカとカナダにおける技術標準の国際化の現状および設計・施工法の改訂の動向および ISO 規格の整合化に関する情報収集を中心に調査活動を実施した。この調査は、平成 13 年 8 月 19 日から 8 月 27 日までの 9 日間の日程でアメリカの AASHTO/LRFD および AREMA 基準とカナダの CHBDC 基準に関わっている関係機関を訪問して行った<sup>3</sup>。

ここでは、以上の海外調査を踏まえて、第 2 章の欧州編ではすでに 1 年以上経過した調査内容となるが調査時点における欧州の設計規準の動向について、第 3 章の北米編ではカナダおよびアメリカの設計・施工基準の動向について、さらに国際化への対応についてのヒヤリング結果について報告する。

---

<sup>1</sup> 土木学会 ISO 対応特別委員会：欧州調査報告書、土木学会 ISO 対応特別委員会誌 ISO ジャーナル、Vol.6、2001

<sup>2</sup> （財）高速道路調査会：欧州橋梁調査団報告書、平成 13 年 3 月

<sup>3</sup> 土木学会鋼構造に関する国際規格調査小委員会：技術標準の国際化に関する北米調査報告書、土木学会 ISO 対応特別委員会誌 ISO ジャーナル、Vol.7、2002